

歌壇

櫻井 登世子 選

特選

友は遠く語る人なき一日は古い日誌を取り出して見る

千石 小出 風沙子

新しきマンション建ちて啄木の終焉しゅうえんの碑の消えてしまいいぬ

春日 二村 吉光

言はざれば諍いさかふことも無きものを悔い持ちて仰ぐ寒の青空

向丘 三宅 あき子

入選

一人子の戦死公報受け取りし義父ちちは生涯靖国へ行かず

水道 高木 マリ

初春の箱根駅傳の学徒らよ世の山坂もたゆまず走れ

西片 松林 利枝

顔なじみのいくつもの店閉じてゆき大型スーパ一の派手な宣伝

大塚 加藤 喜雄

晩秋の小鳥からす少なく公園に鴉二羽いて暮れてゆくなり

白山 宮田 要

曲がりたる母の背中を包むごと梅の香やさし小石川の園

本駒込 伊東 民子

霜柱見ればかすかに思ひ出す幼なき頃の故郷の道

春日 岡田 政己

春蘭の花芽の五つべランダの寒さに耐えて正月迎う

小石川 白鳥 茂子

※平成二十七年一月(予定)に啄木終焉の地の隣敷地に歌碑を設置します。

俳壇

松澤 雅世 選

特選

一服の隙き間見つける小晦日

千石 菊地 正矩

おかへりと言へる幸せ根深汁

向丘 三宅 あき子

ひとふで したた
一筆に認められし秋の雲

春日 波多江 淑子

入選

冬桜愛想笑いをせぬが好し

小日向 内野 仙也

武蔵野の空の高さよ蜻蛉飛ぶ とんぼ

春日 岡田 政己

十二月何もかにもが押し寄せり

大塚 佐々木 節子

白寿より卒寿に届く年賀状

西片 白井 良治

存らへて自由と孤独去年今年

西片 中島 多津子

羽づくろふ影のひととき白障子 は

白山 藤井 優子

「おめでとう」声聞きたくて初電話

千駄木 山田 経子